



「じゅんぽ」の「サポート」

「サポート」

みんなと一緒

「じゅんぽ」の「サポート」

前回の「じゅんぽ」は、「国際生活機能分類(International Classification of Functioning: ICF)」について少し触れましたが、今月はその具体的な例をご紹介します。

町内のある小学校に車イスで学校生活を送っている女の子がいます。持ち前の負けず嫌いな性格と「なんでもやってみよう」という意欲と根性で、30人近い大所帯のクラスの一員として、毎日元気に登校し勉学に励んでいます。

授業や給食の準備・移動など、一人ではできないこともあるので、支援員の先生が彼女のサインをくみ取りながら「ちよう

どいい」サポートをしてきています。クラスの子や他の学年の子ども達も、「サポートを受けながら、みんなと一緒に生活している彼女」との学校生活を普通のことと捉えて、日常生活を送っています。

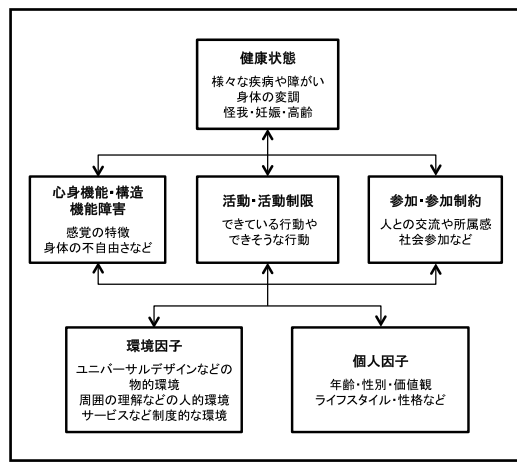
運動会の徒競走でのことです。芝生にした校庭では車イスを彼女自身の力で動かすことは困難で、そうなる学年の子と同じように競技に参加することができなくなってしまう。しかし、「じゅんぽ」ではベニヤ板を数枚並べ、その上を自力で車イスを動かして競技に参加する、という方法が提案され実現されたのです。

また他の例えとして、こまかい指先の動きが素早くできない彼女にとつては、ページをめくることが一苦労です。教科書を使う学習などでは、支援員の先生のサポートを受けていました。以前はみんなと同じ教科書を使って、音読や授業内容を進めていきましたが、今はタブレット端末に全ての教科書を取り入れ(お父さんの大活躍！)、自分の指で操作しながら、自分のペースで教科学習にとりくみ、他の子

と同じように「障がない時間帯」を過ごしているのです。

いずれの場合も、彼女の「やる気」があつて成立していることではあります。関わる人の理解がすすむことによって、結果的にできる活動が増え、クラスの一員・学校の一員としての所属感をもって友達と過ごし、障がいがあつても「いい状態」で過ごせているのです。

これまでは障がいがある「だから〇〇できない」だから「参加が難しい」という一方向の考え方だったのですが、ICFは「個人のこと」「環境のこと」「障がいによる不自由さ」「できる活動」「人とのつながりや社会参加など、様々なこと



ICFの関係図

プラス面やできることに焦点をあてながら支援していく、という考え方

を統合的にからみあわせ、プラス面やできることに焦点をあてながら支援していく、という考え方なのです。この考え方は発達障がいや精神障がいのように、見た目ではわからない障がいでも、同じように通用します。パッと見てわからない分、理解が難しいと感じることもあるかもしれませんが、一緒に過ごすことでちよつとずついろいろなことに気づき、知り、少しずつ自然に理解できるようになってくることが大切なのですね。

※内容については、本人・保護者・関係者の了承を得て掲載しています。

植物園だより

軽井沢町の準町花ハナヒョウタンボクが見頃です。赤い球形の果実が二つ並んでつく様子はヒョウタンのようにも見えます。



ハナヒョウタンボク

開園時間 9時～17時
入園料 12月25日(水)まで 無料
冬季休園のお知らせ
12月26日(木)から平成26年3月31日(月)まで冬季休園となります。開園は平成26年4月1日(火)からになります。

【問い合わせ】
植物園 ☎48-3337